

# 2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

西部中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日		2023年(令和5年)2月28日

<b>I 福山市</b>	<p><b>ミッション</b> 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p><b>ビジョン</b> 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
--------------	---

<b>II 中学校区</b>	<p><b>前年度学校関係者評価の主な内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価報告書ではすべての項目で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。</li> <li>評価指標は数値だけでなく、子どもの実態でも評価したほうがよい。</li> <li>ICT教育に向けて、先生方は大変だろうが前に向けて進められるよう頑張っている。</li> </ul>	<p><b>児童生徒の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査では、多くの学校が全国平均を下回っており学力の定着に課題がある。</li> <li>同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。「わかる」と「できる」の認知の差が大きい。</li> <li>素直な子どもが多いが、表現力など本当の意味での自己肯定感が弱い。</li> </ul>	<p><b>育成する力</b> (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p><b>めざす子ども像</b> (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども</li> <li>自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども</li> <li>「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。</li> <li>「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。</li> <li>「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。</li> </ul>
----------------	---	---	--	--

<b>III 自校</b>	<p><b>ミッション</b></p> <p>地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する</p> <p><b>学校教育目標</b></p> <p>進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成 ～根っこを育てる～</p>	<p><b>育成する力</b> (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p><b>めざす子ども像</b></p> <p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え学ぶ意欲的な児童</li> <li>主体的に活動し、自ら成長する児童</li> <li>豊かな心を持ち、地域から応援される児童</li> </ul>
---------------	--	--

<p><b>現 状</b></p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「知りたいことや挑戦したいことについて自分で調べたり実際にやってみたりしている(86%)」個別最適な学び・トイチャレの取組が定着してきている。</li> <li>全校委員会等、自治的活動への参加意欲が高まってきている。</li> <li>●自分の考えや思いをまとめたり、それをわかりやすく伝えたりすることに課題がある。</li> <li>●自治的活動の中で満足感は感じているが、自己肯定感が低い。自信がない。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分で学びを進める学習は楽しい(89%)」「友だちと話し合うことが好き(87%)」学びに対する児童の意欲・関心は高くなっている。</li> <li>●学びの質を高める必要がある。主体的な学び・学びの定着につながる授業、授業と家庭学習をつなげることが課題である。</li> </ul>	<p>教科等</p> <p>研究</p> <p>主題・内容等</p>	<p>国語・算数・(特活)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「できた」「おもしろい」から深まる、主体的な学びの創造</li> <li>付けたい力を明確にした授業 (単元構想:「ひとりですること」「みんなですること」「教えること」)</li> <li>一つ一つの知識がつながり「できた」「面白い」と思える授業</li> <li>児童自らが学んだ知識技能を使って、粘り強く自分の考えや思いを文章で書く活動を取り入れた授業</li> <li>児童が必要な学習方法を選択し、主体的に学びを進める力の育成ができる授業(主体的・個別最適)</li> </ul>
--	------------------------------------	---

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期 経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	プロセス達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	プロセス達成 評価	総合評価	改善方策		
1	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる。	★	新規	児童自らが学んだ知識技能を使って粘り強く自分の考えや思いを伝えることができる。	児童の思考に沿った課題設定をし課題に対する自分の考えを持たせる。放課後の教材研究を充実させる。	漢字・計算の定着・算数科の単元の振り返り(100%) 学んだことを生かして自分の考えや思いをまとめる・伝える活動が好きな児童(80%以上)	漢字・計算の定着(漢91.6%・計算91.0%) 単元の振り返り(100%) 学んだことを生かして自分の考えや分かったことを書く活動が好きな児童79.3% 自分の考えや思いを伝える活動が好きな児童77.3%	3	3	朝全校で取り組んでいるウミベノマナビの時間を継続し、見取りをしっかりと行う。 単元末の振り返りの前には、その単元で身に付けるべき力がついているかを児童が実感できるようキーワードを提示した振り返りや適用題をする。学んだことを生かして書く活動を継続して行うとともに、ペア活動やグループ活動を取り入れ授業の中で伝えあう活動を仕組む。	漢字・計算の定着(漢字94.4%・計算93.5%) 単元の振り返り(100%) 学びを振り返ることができる板書や 適用題の実施。 (算数科100%) 学んだことを生かして自分の考えや分かったことを書く活動が好きな児童(82.9%) 自分の考えや思いを伝える活動が好きな児童(83.0%)	4	3	4	基礎学力の定着を図ったことで、学習に粘り強く取り組む姿勢や、やり遂げた達成感で意欲の向上が見られた。C評価の児童への有効な手立てに課題があり、その視点で、授業や取組の改善が必要である。国語の授業で学んだことを読書カードや手紙の交流等の取組で活用し、学ぶ有用感や相手を意識して書く楽しさを感じられるようになった。今後も継続して取り組む。
1	教職員の資質・能力の向上を図る。	★	新規	職員が、元気と笑顔で仕事をする。	放課後、職員室で、児童の様子や指導方法について語れる時間を確保する。 入退校記録をもとに週1回以上の定時退校の確実な実施と普通日の施錠時刻を厳守する。	仕事に意義とやりがいを感じている教職員{100%} 放課後、教職員が児童の様子や学びについて、対話をしている。	仕事に意義とやりがいを感じている教職員77.8% 放課後、教職員が行事の打合せなどのしなくてはいけない話し合いだけでなく、児童の様子や学びについて気軽に対話する場面が見られるようになってきたが、まだ十分ではない。	3	3	子どもたちに「できた、わかった」と感じさせる授業づくりについて実りある研修をすすめる。 放課後の会議等を増やさないようにして、教職員が自分の裁量で仕事ができる時間の確保を継続していく。 18時30分の施錠10分前には声をかけて退校を促す。	仕事に意義とやりがいを感じている教職員(100%) 放課後、自分たちが児童の様子や学びについて、対話していると答えた教職員(100%) 病休をとることなく職員が元気に仕事をすることができている。	4	4	4	授業研究や毎週のココサンの会で、子どもたちに「できた、わかった」と感じさせる授業づくりについて対話できた。 引き続き授業づくりや児童の様子などを気軽に対話できる教職員の関係づくりと自己裁量の時間の確保を行うことで、教職員の元気と意欲を保持していく。
1	児童・生徒の自己肯定感を高める。	★	新規	授業や行事で自分のよさや頑張りを感じることができる。	授業や行事で相互評価・振り返りを行い、メタ認知を高める。	自分のよさやがんばりが、友だちから認められている。 →自分にはよいところがある。(80%以上)	自分にはよいところがある(76.8%)	3	3	1学期取り組んだ授業での振り返りを継続して行う。 2学期からは、友だちのよいところを見つけて授業や行事で相互評価していく。	自分にはよいところがある(86.2%)	4	4	4	振り返りや相互評価を取り入れることで、目標を達成することができた。引き続き、児童同士が関わる場をつくっていく。 自己肯定感が上がっていない児童には、個別の対応策を考えていく。また、担任だけでなく、教職員全体で全児と関わり、自己肯定感が高まっていくよう取り組む。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評価点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。